

平成29年度 河川魚類等調査委託 報告書(概要版)

調査概要

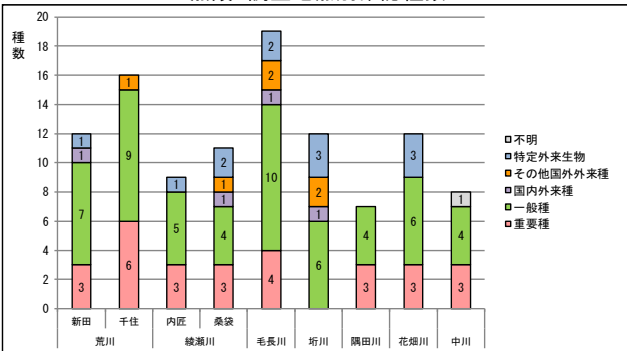
足立区内の魚類生息状況を把握するため、平成29年7月～10月に荒川、綾瀬川、毛長川、圀田川、花畑川、中川の7河川9地点にて魚類調査を実施した。調査は、定置網・刺網・投網・タモ網等を用いて魚類の任意採集を行った。綾瀬川の2地点では、底生動物の採集も行った。



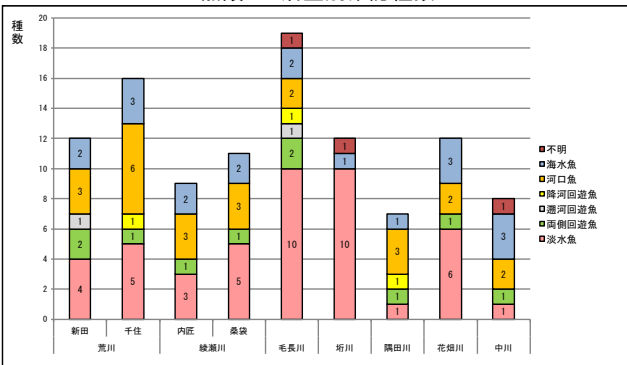
調査結果

- ・合計7目13科31種の魚類が確認された。
- ・8種の魚類が重要種に該当した。
- ・2種が国内外来種、7種が国外外来種に該当した。国外外来種のうち5種が特定外来生物に該当した。
- ・確認種の48%が淡水魚、16%が回遊魚、32%が河口・海水魚であった。
- ・毛長川、圀田川は比較的の上流に位置するため、淡水魚の割合が高かった。
- ・綾瀬川では、14種の底生動物が確認され、5種が重要種、2種が外来種に該当した。(外国産由来の可能性のある種含む)

魚類 調査地点別確認種数



魚類 生活型別確認種数



河川別調査結果

【毛長川】ふれあい橋上流付近 9月7日/8日 曇り/晴れ



【調査地点概況】
両岸とも植生に覆われている。
本調査地点のうち、最も上流に位置する。

【確認種】19種
ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、マルタ、モツゴ、タモロコ、ニゴイ、スゴモロコ、チャネルキャットフィッシュ、カタヤシ、スズキ、ボラ、ウキゴリ、マハゼ、旧トウヨシノボリ類、シモフリシマハゼ、アマチチブ、カムルチー



【綾瀬川】桑袋ビオトープ公園付近 7月10日/11日 晴れ/晴れ 10月4日/5日 晴れ/晴れ



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸であり、親水テラス付近では浅場や抽水植物がみられる。

【確認種】11種
ゲンゴロウブナ、ニゴイ、スズキ、ブルーギル、オオクチバス、ボラ、マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、カムルチー



【花畑川】六木三丁目付近 9月5日/6日 曇り/曇り



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸となっているが、親水テラス付近では浅場や抽水植物がみられる。

【確認種】12種
コノシロ、モツゴ、ニゴイ、ミナミメダカ、スズキ、ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、ボラ、マハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ

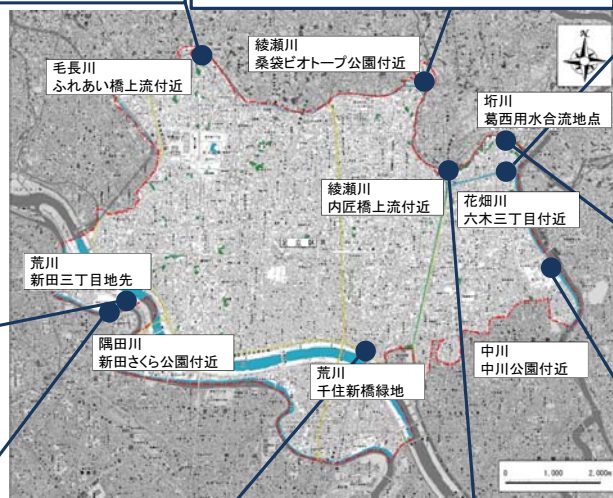


【荒川】新田三丁目地先 9月6日/7日 雨/曇り



【調査地点概況】
抽水植物、ワンド、流入水が存在し、干潮時に干潟が形成される。

【確認種】12種
コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、マルタ、スズキ、ブルーギル、ボラ、カワアナゴ、マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ



赤色の種:重要種 青色の種:国外外来種 緑色の種:国内外来種

【圀田川】葛西用水合流地点 9月4日/5日 雨/曇り



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸であり、ヨシ等の抽水植物はみられない。

【確認種】12種
コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、タモロコ、ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、ボラ、旧トウヨシノボリ類、カムルチー



【隅田川】新田さくら公園付近 9月6日/7日 雨/曇り



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸であるが、左岸側は親水テラスとなり、一部で抽水植物群落や人工ワンドが造成されている。

【確認種】7種
ニホンウナギ、ギンブナ、スズキ、マハゼ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ



【荒川】千住新橋緑地 9月7日/8日 曇り/晴れ



【調査地点概況】
河岸にワンドが整備されており、干潮時に干潟が形成される。抽水植物もみられる。

【確認種】16種
ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、ニゴイ、スズキ、ヒイラギ、ボラ、ピリンゴ、ウロハゼ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ



【綾瀬川】内匠橋上流付近 7月10日/11日 晴れ/晴れ 10月4日/5日 晴れ/晴れ



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸で、抽水植物はみられないが、干潮時に浅場がみられる。

【確認種】9種
コイ、ニゴイ、チャネルキャットフィッシュ、スズキ、ボラ、マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ



【中川】中川公園付近 9月4日/5日 雨/曇り



【調査地点概況】
抽水植物が生育し、干潮時には干潟が干出する。

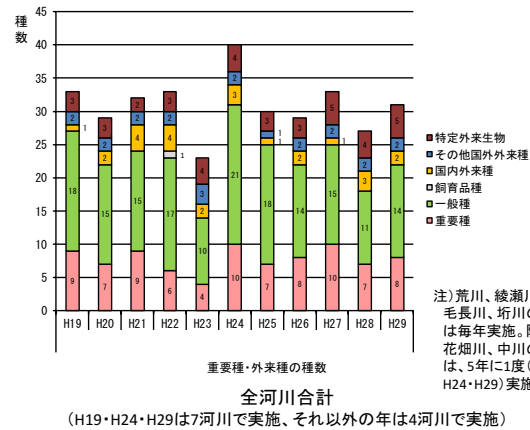
【確認種】8種
コノシロ、ウグイ属、ニゴイ、スズキ、ボラ、マハゼ、アシシロハゼ、アマチチブ



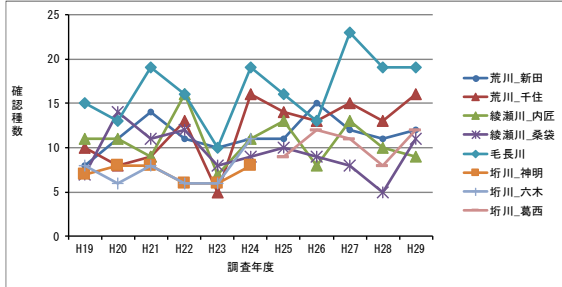
経年変化

- 平成19年から平成29年(今年度)までの11年間で、合計9目20科49種の魚類が確認されている。
- 重要種は今年度までで合計11種が確認されており、毎年4~10種の間で推移している。
- 国外外来種は今年度までに合計8種確認されており、毎年4~7種の間で推移している。
- 特定外来生物は今年度までに5種が確認されている。
- 毛長川は多様な生息環境を反映し、毎年多くの魚種が確認されている。
- 両岸が垂直護岸の綾瀬川、圀川では、生息環境が単調なため、例年、比較的、確認数が少ない。
- 荒川は流域面積が広く、出水等によって上流からの魚類の加入量が変化し、年によって確認数が変動するものと考えられる。
- 5年に一度実施している隅田川、花畑川、中川の3河川のH29確認種数は、いずれもH24よりも少なく、H19とほぼ同等であった。

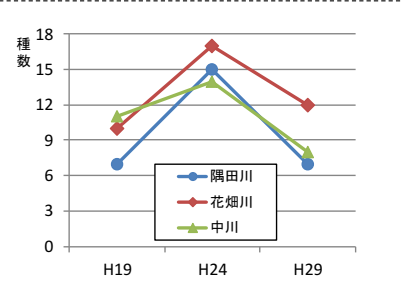
足立区内における魚類の確認種数の経年変化



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化
(毎年実施の4河川)



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化
(5年ごとに実施の3河川:今年度実施)



着目種

- 今年度調査では、温暖化に伴い分布域の拡大が指摘されるウロハゼ、カワアナゴが確認された。これらの魚類は、地球温暖化の指標になりうる種であり、今後の動向が注目される。
- H24年度から確認され始めたチャネルキャットフィッシュは、昨年度に引き続き今年度も確認された。稚魚が確認されていることから、周辺水域で繁殖していることが懸念される。
- H24年度から継続して確認されている特定外来生物のカワヒバリガイが今年度も確認された。本種は、大量に増加すると、水道施設等に大量に固着し、通水被害等を引き起こす恐れがあるため、今後の動向に注意する必要がある。
- 昨年度に引き続き、特定外来生物が多く確認された。確認された種は、魚類5種(チャネルキャットフィッシュ、カダヤシブルーギル、オオクチバス、コクチバス)、底生動物1種(カワヒバリガイ)、両生類1種(ウシガエル幼生)の合計7種であった。



平成29年度 確認種一覧

No.	目	科	種	生活型	調査地点										重要種	外来種		
					荒川		綾瀬川		桑袋		毛長川	圀川	花畑川	中川				
					新田	千住	7月	10月	7月	10月								
1	ウナギ	ウナギ	ニホシウナギ	降河		1						1	1	2	2	国・EN、都・VU		
2	ニシン	ニシン	コシロ	海水														
3	コイ	コイ	コイ	淡水	1	1	1					1	1				国内	
4			ゲンゴロウフナ	淡水	3				2			3	21				国内	
5			ギンナ	淡水	1	4						3	3	1			国外	
6			タイリクバラタナゴ	淡水		3						13	2				都・留	
7			マルタ	遡河	5	3						1					都・留	
8			ウグイ属	不明													1	
9			モツゴ	淡水	1							6	52					
10			タモロコ	淡水								3	8					
11			ニオイ	淡水	2	1	2				1	1					都・NT	
12			スコモロコ	淡水								9					国内	
13	ナマズ	アメリカナマズ	チャネルキャットフィッシュ	淡水			1					2					特定	
14	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	淡水								9					特定	
15	メダカ	メダカ	ミナミメダカ	淡水													国・VU、都・CR+EN	
16	メスズキ	メスズキ	メスズキ	海水	4	17	1	2	2	1	7		2	2	6			
17			サンフィッシュ	ブルーギル	1							23					特定	
18				オオクチバス								1					特定	
19				コクチバス								1					特定	
20	ヒラギ	ヒラギ	ヒラギ	海水		1												
21	ボラ	ボラ	ボラ	海水	87	16	2	3	5	1	7	19		3	31			
22	カワアナゴ	カワアナゴ	カワアナゴ	両側	1													
23	ハゼ	ウキゴリ	ウキゴリ	両側								10					都・NT	
24		ウロハゼ	ウロハゼ	河口														
25		マハゼ	マハゼ	河口	15	6	3	4				8	9	17	8	22		
26		アジシロハゼ	アジシロハゼ	河口	9	3		2				1				7	都・留	
27		アベハゼ	アベハゼ	河口	2									17			都・NT	
28		旧トウヨシノボリ類	旧トウヨシノボリ類	不明									3	2				
29		シモフリシマハゼ	シモフリシマハゼ	河口	10	7	14					2	13		4	1		
30		ヌマチチブ	ヌマチチブ	両側	32	8	8	8				28	73		1	14	19	都・留
31		カムルチ	カムルチ	淡水								1						国外
合計	7目	13科	31種	種数	12	16	7	7	5	8	19	12	7	12	8	8種	9種	
				個体数	169	75	30	22	11	44	172	134	43	48	89			

注1: 種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト 河川環境データベース」に準拠した。
 注2: 生活型の区分は、加納光樹・小池哲・河野博(2000) 東京湾内湾の干潟域の魚類相とその多様性、魚類学雑誌47(2):115-129を参考とした。
 注3: 重要種(赤色で示した種)
 国・VU...環境省RL(2017)の絶滅危惧Ⅱ類、都CR+EN...東京都RDB(2013)区部における絶滅危惧Ⅰ類
 都・NT...東京都RDB(2013)区部における準絶滅危惧、都・留...東京都RDB(2013)区部における留異種
 注4: 国外外来種(青色で示した種) 特外...特定外来生物 国外...国外外来種
 注5: 国内外来種(緑色で示した種) 国内...国内外来種(国内の他の領域から人為的に移入された種)
 ※ゲンゴロウフナ及びスコモロコは重要種に該当するが、関東では国内外来種に該当するため、重要種の選定から外した。
 ※表中の数字は確認個体数を示す。

底生動物	調査地点	確認種	合計
		内匠橋上流付近	ミマサカジーカイメン、ヒメタニシ、カワヒバリガイ、シジミ属、カワゴカイ属、ユリミズ属、テナガエビ、スジエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ
	桑袋ビオトープ公園付近	ミマサカジーカイメン、ヒメタニシ、カワヒバリガイ、カワゴカイ属、ユリミズ属、ミヅレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ、ベンケイガニ、ヒメテンコケムシ、オオマリコケムシ	11種

まとめ

- 足立区には、様々な環境の河川が存在し、それぞれの河川には特徴のある魚類が形成されている。
- 調査河川は、海域との連続性は高いが、周辺水域との連続性は比較的低く、また、両岸直立護岸の直線的な箇所が多いため、調査河川内にも事例があるように、河川と連続性を持たせ、魚類の生息・産卵環境となるような、池や湿地等のビオトープや人工的なワンド・干潟などの環境を増やしていくことが望まれる。
- これまでの調査では、外来種が多く確認されており、在来種への悪影響が懸念されていることから、観賞魚等を野外に放たないといった啓発活動も必要である。

